

令和 6 年度
第 1 回八戸市行政改革委員会 議事録

日 時 令和 6 年 5 月 24 日（金）午後 2 時 00 分～ 2 時 50 分
場 所 八戸市庁 本館 3 階 第 1 委員会室
出席委員 武山委員長、田中委員、平山委員、蕨委員、山道委員
事務局 久保総務部長、清水行政管理課長、三戸行政改革 GL、
赤石主幹、芝主査、山田主査
次 第 1 開 会
2 審 議
(1) 第 8 次八戸市行財政改革大綱について
3 閉 会

次第 2 審議 (1) 第 8 次八戸市行財政改革大綱について

委員長： それでは、議事を進めます。
本日の審議案件は、「第 8 次八戸市行財政改革大綱について」です。
事務局からの説明をお願いします。

〔事務局が資料に基づき説明〕

委員長： はい、ありがとうございました。ただ今、資料全般にあたっての説明いただきましたが、ただ今の説明に対して何か質問・ご意見・コメント等あればお受けしたいと思いますすけども。何かございますか。

A 委員： 参考資料 1 の柱の 2 の一番下の用語解説の中に、トライアルサウンディングの実施という言葉があって、トライアルなのでおそらくなんらかの試行をするということかと思いますが、具体的にはどんなことを実際にやろうとするのか。あるいはそれに例えば市民がどういうふうな関わり合いがあるかというところについて、分かる範囲でお教えいただければと思います。

事務局： トライアルサウンディングということでございますけれども、現在、YS アリーナにおきまして、駐車場に面した部分の一区画が空いている状況でございます。そこでサウンディングとして、事業者の募集を先日行いまして、何社か何期かに分けて入っていただくようにさせていただいております。

今、何期目かが入っていらっしゃるのですが、例えば、入居した事業者がどういう手法であれば今後継続できるのかというところを検討していただきながら、市側、施設側の方にもこういったことが必要ですとかそういった要件を、対話によって固めていくというようなことをしまして、最終的には継続的に入っていただけるような事業者を募集するという動きになってございます。

どちらかというと、事業者向けの企画・事業になりますが、最終的にはご利用される市民の方々にもメリットはでてくるものと考えております。以上です。

A 委員： はい、ありがとうございます。

委員長： そのほかにか質問・ご意見等コメント等ありますでしょうか。

委員長： では、私の方から。用語解説の中にもありますけれども、この RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とか、以前から聞いたことはあったのですが、具体的にシステムの中で取り入れられているものはありますか。

事務局： はい、手元に資料が揃っておりませんが、例えば、業者さんの方から様々な支払いの請求があがってくる中で、取りこぼしがないかどうか、歳出の手续が済んでいないところに対して、庁内向けのメールを作成しています。エクセルからメールにコピーアンドペーストし、機械が自動的に異なるソフトを超えて作業が行うことができるという意味でエクセルのマクロとはやや違う拡張した機能がございました。そういったものを活用することによって、手作業でやっていたコピーアンドペーストを機械が自動化して行うという事例がございました。

そのほかにもいくつか、申請書をデータ化する、データベースの方に入力するなども行われているように聞いております。以上でございます。

委員長： はい。

（今回の委員会資料をタブレットで閲覧する試行を受けて）タブレットの資料もいいですね。拡大できたり、簡単に検索したりもできるので、紙ベースの資料より大分よくなったのかなと思います。

A 委員： 現実的には、ペーパーレス化と言っていますが、ゼロにはおそらくないと思います。

量的なものをこういう機器を使って減らすことは可能ですけど、書類をゼロにして組織を運営していくとか、デジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」）がいくら進んでも、ペーパーゼロになるということを想像しがたい。例えば、市議会議員の方はタブレット端末を1人1台持ってらっしゃるんですね。そういうところで、かなりコストかかってきますよね。OS（オペレーティングシステム）が変わったら、対応させなければいけないとか、分からないから教えなければいけないというところで、業務が増えてしまうようなところも出てくるので、DX化と現状の業務の効率化というところのバランスはトライアルアンドエラーも少し考慮に入れながら、行財政改革を進めていかれたほうがいいかなという感想を持ちました。

委員長： ほかになにかありますでしょうか。

A 委員： あと一つ、第 3 次までは行政改革の大綱だったのが、4 次から財政の問題が入っていますよね。そこはどういう進展というか、発展だったのでしょうか。当然、行政運営してくれば財政の問題考えないといけないのだろうなというふうに思いますが。もし、分かればで結構ですけれども。

事務局： はい。なぜ財という文字が入っているかにつきましては、のちほどお答えさせていただければと思います。申し訳ございません。

委員長： そのほかになにかありますでしょうか。

委員長： OA（オフィス・オートメーション）化がかえって紙の資料を増やしていたり、IT（インフォメーションテクノロジー）化がかえって仕事を増やしていたりするようなところも若干あるのかなと思う中で、職員数を目標に従って順調に減らしているのはいいのかなと思うのですが、かえって職員の負担が増えてないかどうかというのが、気になる場所ですね。

それを測れる指標があればいいのかなと思うのですけどもね。残業時間とか。

A 委員： なかなか業務量って数値化できないですしね。1 日何枚書類作ったとかですね。

委員長： 小学校の先生の例では、年々仕事の量が増える中で、働き方改革で早く帰れとは言うけれども、そんな掛け声だけかけられてもしようがない、仕事を減らしてもらわないと働き方は良くなっていかないという話を聞きました。

あと、税収の目標と達成状況というのが気になっているところではありました。

事務局： 第 4 次大綱での市税徴収率のところの内容かと思いますので、私の方から回答させていただきたいと思います。

資料の方では、資料 1 の 3 ページの下の所です。目標では、平成 21 年度までに一般市税では 94.0%、実績の方は 92.8%ということで、目標を達成できなかったというところでございました。

その要因といたしましては、当時歳入確保策について税収面において、徴収率及び税収増加額を目標値として当初少し高く見込みすぎたという要因と、当時、世界的不況、リーマンショックも平成 21 年にございましたけれども、様々な対策を講じたのですが、実績としては思うように結果が結びつかなかったことが要因となってございました。以上です。

委員長： これは今後、目標の中に入れていくような考えというのはいないですか。
非常に重要なところだと思いますが。

事務局： 市税徴収率の令和4年度の実績ですが、一般市税では97.2%ということで
当時と比べて改善しておりますが、今後の市税徴収率の指標について、
目標は今のところは検討しておりません。以上です。

A委員： 一ついいですか。一般市税というのは、個人住民税と法人住民税を合
わせた金額ということですか。

事務局： はい。

A委員： ありがとうございます。

委員長： そのほかに感想的なものでも。

B委員： 感想ですけれども、先程のRPA（ロボティック・プロセス・オートメー
ション）のお話でいくと、例えばエクセルのものをメールにするとか、た
ぶんコパイロットとかを活用されているのかなと思いますが、コパイロッ
トは非常に優秀ですよ。

もし庁内で活用できているのであれば、そのノウハウを民間にも展開す
るとか、引っ張っていくような感じになってくれれば嬉しいなと思いま
す。DX、IT（インフォメーションテクノロジー）を推進する側からすると、
なかなか民間の企業さんにお話するのも大変だったりするので、先程、法
人税もという話だったので市内の企業のDXだったり、効率化というところ
を市がリードできるのではないかなとちょっとワクワクした未来が見
えたりしました。

A委員： 市税が還元できるような形にはなりますよね。

B委員： まだまだ、DXの手前、デジタイゼーションにも及ばないところも多い
ので、行政が引っ張るってとても素敵だなと思いました。

委員長： そのほかにC委員、感想的なものでも。

C委員： 私が思うところなのですが、税収、少子高齢化ということで、この
ことに関しては、もう少し手厚い保護というか、サービスをしていく中で、
子ども、まず結婚しようと、家庭を持ったら子どもを作ろうとか、少子高
齢化に関しては意識を高めるといふか、幸福度がちょっと満たされていな
い。将来に向けての不安があるので、やはり結婚できないよねとか、子ど
も作れないよね、というところがあるのかなと思います。

これはなかなか一朝一夕にいくものではないかもしれないですけども、

無駄なものはないとしても、今なにを優先すべきなのかというところで、人口を増やすという意味においても、結婚っていいものだよっていう。ニュースから飛び込んでくるものって、青森県はワースト1位のところを占めているので、そういうものを受け入れなければならないみたいな、なにか青森県、八戸市、市町村、その夢を持てずにいるのかなと感じています。夢を持てるようなビジョンを明確に持つこと、持たせることが大事かなと思います。

少子高齢化に関しては、子どもを産んでいただくということは可能性としては高いものだと思いますので。

委員長： 雰囲気のような。

C委員： そうですね、子どもを産んでもらう、結婚してもらうとか。

委員長： 宮下知事も力を入れたいというようなことを言っていますけれども、まだなかなか成果があがってきていないのかなというところもありますね。

B委員： 八戸市の給食費無償化というニュースはかなりママたちの間でも話題になりましたよ。やっときたと。

委員長： 教育費がだいぶかからないようには変わってきてはいるとは思いますが、昔に比べると。なかなかそれだけでは。

C委員： 優先順位の1位、2位にするとか。極端な発言なのですけども。そうしなないとなかなか人口が増えません。

やはり、子どもが成長するには、時間がかかりますので、これ以上もう先延ばしできるところにないと思っています。10年20年先、成人を迎えるに当たってですね、今2024年ですから、2040年とか、いろいろ問題や課題があると思うんですけども、そこに向かうにはもう1日でも早く1年でも早く、少子高齢化対策にすぐに臨んで進むところなのかなと思っています。

委員長： D委員なにか感想的なものでもいいですけど。

D委員： はい、デジタルとアナログの入れ替わりの時期なので、どうしても職員、時間、変わるための労働、勤務というのは必要なところで、将来に向けての投資だと思うので、そこはじっくり土台を固めていくのが必要なのかなと思いました。あとは職員の皆さんで手に負えないところは、民間の力も借りられるところは借りているのかなとか。あとは経費を削減しながらも、必要な所には投資してもらって、将来を見据えて子どもさんのためのお金を、財源を確保しなければならないと思うので、歳入のところとかもすごく気になるなと。

あと質問が一つあります。建物や土地のネーミングライツは、今の時点でどこか候補とか、結構数とかもあるものですか。

事務局： ネーミングライツにつきましては、基本的には建物につけることが多く、八戸市の場合は例えば YS アリーナですとか、先日は、公会堂・公民館についてもネーミングライツを募集して、手続を今進めているところでございました。

D 委員： 一般の事業者の方と協働して財源が確保していけばいいなと思ったところでした。

委員長： そのほかにかありますか。

B 委員： 企業さんもそうですけれども、市民団体だったりの部分に見えてくるといいなと思ったりして。弊社法人ですけれども、法人の中で地域のコミュニケーション作りを行ったりしていますが、地域活動として YS アリーナのトライアルサウンディングを活用できたらいいなとか。そういうのも思ったりするので、市として社会の課題への部分が見えたら個人的には嬉しいなと思いました。仙台市などではそのソーシャルビジネスのスタートアップ支援だったりとか、力を入れたりして、八戸市もそのような取り組みが、8 サポ（はちのへ創業・事業承継サポートセンター）さんの方で少し出てきてはいますけれども、市としても見えてくるといいのではと感じていました。

委員長： そのほか、委員の皆様方から何か発言、よろしいですか。

B 委員： ちょっと余計かもしれないですけど、先程、委員長が仰っていた職員の業務量とか、青森県の DX 推進委員会でも、DX として、県庁内の改革について、進捗をどう測るかというのが議論になりました。

職員の負担が増えては元も子もない、ただし見える化もしなければいけないというところで、どのように進捗管理をしたら職員の負担も減らしていくことができるか、そこにも IT（インフォメーションテクノロジー）技術が使えるのではないかと。市としても、その視点もあってもいいのかなと思います。

例えばデジタル庁の改革の進捗確認をするダッシュボードがあるのですけれど、これはそれぞれ円グラフで進捗が出ています。デジタル庁が各行政に出している項目について、達成した行政リストが出ていたり、結構見やすくなっていたりするので、八戸市の取組も市民に見える形になればいいのかなと思いました。何をやっているか、私もこの委員会に参加してやっと知って、こんなにたくさんの事をやられているのかとびっくりしたので、それが見える化、出来る範囲で、ですが、理解を促すのもいいのではないかと、自分ごとになっていくといいなと感じました。

委員長： そのほかにはよろしいですかね。

C 委員： 私の年代ですと、DX が進んでいくのは別にいいとは思いますが、やはり年齢的にそこに置いてきぼりを感じる方たちがいるという理解と認識は大切かなと思います。

B 委員： デジタル庁は誰一人取り残されないとっていて、DX で取り残される人がいてはいけない、と大前提がそこなんです。ですので、デジタルが苦手な方々、高齢者だけではなく視聴覚障がい者の方とかも含め、赤ちゃんも含め、誰一人取り残されない改革の仕方をきちんと丁寧に進めましようと言っているので、どう丁寧にケアしていくかというのは考えなければいけないとこだろうなと思います。

C 委員： 一生懸命やっても、その方たちがどういうふうを受け入れるか、どういうふうを受け止めるかということも大事かなと思います。

委員長： そのほかよろしいでしょうか。

ありがとうございました。質問、ご意見、コメント等がないようであれば、以上で予定の審議はすべて終了いたしました。